



大西公園周辺では こんな工事が行われています

●大西山の復旧治山工事

大鹿村はこれまで何回も災害に見舞われてきました。中でも昭和三十六年の災害では大西山が大崩壊を起こし多くの尊い命が奪われました。崩壊した斜面はその後徐々に上の方へ荒廃が進み、その荒廃の進行を止めるために昭和六十一年から大西山復旧治山工事が始まりました。

平成八年度からは大崩壊地の最上部の工事に着手しましたが、平成十年に斜面崩壊事故が発生したために荒廃斜面への立入が禁止となり、検討した結果「無人化施工」により工事を行っています。それまでの工事ではモノレールを使って工事材料を運んでいましたが、無人化施工の機械はモノレールでの運搬が無理なため、分解してヘリコプターで空輸し現場に組み立てて使用しました。

無人の重機による作業は、現場の上の方に固定カメラを置き、機械にもカメラを設置しカメラからの映像をモニターに映して操作をしました。

大型機械は分解して空輸しヘリコプターで空輸しました



●今後の活躍が期待される無人化施工
 無人化施工はこれまでも全国各地で行われ実績を上げてきました。新潟県中越地震においても遠隔操作の重機が活躍しました。実績の積み重ねとともに技術の進歩が

続く無人化施工は作業員の入れない危険な現場で活躍が期待されています。

モニターを見ながら遠隔操作をします



昭和36年災害における大西山大崩落の状況



建設省中部地方建設局天竜川上流工事事務所 S36.6災害 大西山変貌写真集(1984.11)より

●大鹿村の砂防工事と大河原護岸・床固工群

長野県下伊那郡大鹿村は中央構造線上に位置しており、古くから国の直轄事業として砂防工事が行われてきました。大河原床固工群は、小渋川が青木川合流点で大きく曲がっていること、三六災害後に作られた施設が老朽化しているため、現在整備が進められています。

砂防工事の目的は自然の河川災害から人命・財産を守るためですが、近年においては景観への適合や生態系への配慮が重要問題として位置づけられています。

大河原地区における護岸・床固工事に於いても例外

無人化施工の手順

- ①小型のバックホーをヘリコプターで現場まで運びます。
- ②最初に運んだ小型バックホーで大きな無人化機械を組み立てる場所を整地します。
- ③分解した無人化機械と小型クレーンをヘリコプターで運びます。
- ④運んだ小型クレーンで大型の無人化機械を組み立てます。
- ⑤無人化機械＝建設用ロボットで崩れる危険のある斜面を削り取ります。
- ⑥岩盤は大型破碎機をついた無人化機械で壊します。

近年に於いては景観への適合や生態系への配慮が重要な問題として位置づけられています



国交省・林野庁・大鹿村が一体となって進められています

大西山復旧治山工事 (林野庁)

大西公園の整備 (大鹿村)

大河原護岸・床固工群工事 (国土交通省)

ではありません。大西山大崩壊地を背後に控え、大西山の崩壊堆積地であるという悲劇の歴史を持ちながらも村民の努力の結果、今や桜の名所と言われるまでになった大西公園に隣接するこの護岸・床固工事は、砂防施設としてだけでなく、村の中心でありコミュニティの空間の一部として、国交省・林野庁・大鹿村が協力・連携しながら進められています。



(株)トライネット 現場代理人 権藤 実

ただいま大西公園下付近で護岸工事をしています。三月には工事が終了しますが無事故で完了できるよう最後まで気を引き締めて頑張りたいと思います。

平成16年度 天竜川水系 大河原大西地区護岸工事
 施工：株式会社トライネット
 現場事務所電話：0265-39-1013

現場の様子はここを見てねっ

平成16年度 天竜川水系 大河原大西地区護岸工事
 特設ウェブサイト開設中

隣の工区の大協建設さんとウェブサイトを開設しました。現場の状況だけでなく働く人達の雰囲気など発信していけたらと思っています。

URL:<http://www.try-net.co.jp/ookawara/index.htm>

大協建設さんのサイト

URL:<http://www16.ocn.ne.jp/~taikyo02/index.htm>